

## 【95】超高層マンションの火災

昨年11月、香港で30階建ての超高層マンションが、事あろうに7棟もが火災で焼け、150人以上の死者を出したというニュースには驚かされました。

コンクリートの建物に次々と延焼するということは、画像を見るまでは信じられませんでした。

原因は、マンションの大規模修繕を一団地の8棟すべてのマンションで実施しており、ビルの周囲を取り囲む作業用足場が竹で出来ており、それを覆うネットや工事中にビルの窓をカバーする発泡スチロールなど全てが燃え易い材料だったことに在ったようです。

筆者の現役時代、香港に出張した時、隣接している深セン（しんせん）の工業団地を視察する機会がありました。

折から建設中の高さ100mくらいの超高層ビルの足場が、竹を組んだもので造られており、ビルがすっぽり竹籠の中に在るような観を呈し、ビックリしたことを思い出します。

それから30年経っても状況は似たようなものだったのですね。

数年前、イギリスのロンドン郊外の超高層公営住宅の火災では、外壁断熱用の断熱材が可燃性のプラスチックで、それが燃えて大事に至り大勢の死者を出しました。

日本でも、超高層ではありませんが、高層住宅ビルの火災で、ベランダの防護柵が可燃性のプラスチックガラスだったので、防護柵が燃え火事が上層階へ延焼したことがあります。

今や超高層ビルの火災は小規模なものまで数えると世界中で発生しており、日本でも他人事ではありません。

今回の香港の火災でも、例によって、日本は中国と状況が異なるから、あのような火災は生じにくくないと解説する“専門家の言”がTVや新聞に報じられていますが、“明日は我が身”という格言もあります。

外国と日本の条件の違いとして、日本は地震が多く大地震時の発火点が多数になることが挙げられます。

わが国で超高層ビルの大火災があるとすれば、どういう状況下なら発生するのかと、逆方向から検討するなど柔軟な考えが望されます。